アオサギ観察会

2016年5月11日

羽の利用の歴史

鳥の羽と言って、みなさん最初に思い浮かべるのは 右の写真のようなではないでしょうか。写真の羽は 両方ともアオサギの風切羽ですが、同じ風切羽でも ついている部位によって一本一本の形が少しずつ違 います。このようなアオサギの羽は、昔は矢羽根に 使われることもありました。また、茶道では羽箒と して現代でも用いられているようです。





羽の利用ということではアオサギとは比較にならないほど多くの利用があったのがシラサギ類の蓑毛です。蓑毛は繁殖期に顕著に現れる羽の一種で、背中や首元に細く長く伸長します。一説では、この蓑毛が細毛(サケ)であることから、サギの名のもとになったとも言われています。

この蓑毛はアオサ ギでもかなりエレ

ガントですが、シラサギ類のそれが一層ゴージャスなのは みなさんよくご存知でしょう。とくに百数十年前のヨーロ ッパの女性にはこれが相当な魅力をもっていたようです。 その結果、当時は世界中で毎年何百万羽というサギ類が殺 されていました。サギ類にとってはとんでもない受難の時 代だったのです。





サギの羽は古今東西を問わず何か特別なものと見られていたようです。以前、日中共同のシルクロード調査隊が、楼蘭の遺跡で約4000年前の女性のミイラを発見したことがありました。そして、この女性の頭には2本のアオサギの羽が飾られていました。楼蘭の国では、結婚式の前夜、キツネの皮二枚とパンまたは小麦粉、そして一束のアオサギの羽を新郎から新婦へ贈るのが慣わしだったのです。